

2026 年度 授業計画(シラバス)

学 科	看護学科		科 目 区 分	専門分野	授業の方法	講義演習
科 目 名	看護の統合と実践		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対 象 学 年	3年次		学期及び曜時限	前期	教室名	各教室
担 当 教 員	今若 広之	実務経験と その関連資格	総合病院にて看護師として勤務			
《授業科目における学習内容》						
3年間の学習内容を活用し、より臨床実践に近い形で学習し、臨床において適応できるような基礎的知識と技術を学ぶ。また、卒業時到達目標に向け技術練習を行い、臨床看護の場で活用していくことができるように、状況に応じての援助方法を学ぶ。						
《成績評価の方法と基準》						
授業参加状況、演習への取り組み、看護計画、振り返りレポート、筆記試験で総合的に評価する。 判定試験に合格することで本科目の履修が認められる。						
《使用教材(教科書)及び参考図書》						
①系統看護学講座 基礎看護技術Ⅰ、Ⅱ、臨床看護総論、呼吸器、循環器、血液・造血、消化器、内分泌代謝、脳神経、腎・泌尿器、女性生殖器、運動器、アレルギー・膠原病・感染症、皮膚、眼、耳鼻咽喉、歯科・口腔、人体の機能と構造、疾病の成り立ちと回復、臨床外科総論、各論、看護技術がみえる1・2、看護が見える フィジカルアセスメント、臨床看護、機能障害からみる看護過程1・2・3						
《授業外における学習方法》						
1.授業を理解するために、既習科目を復習しながら事前・事後の課題に取り組むこと。 2.演習では、手順や留意点、イメージトレーニングを行い、主体的に演習に臨む。既習の看護技術の講義内容をよく復習し、ワークシート、WEB 教材や看護技術のサブテキストを活用して、毎回の事前課題に取り組むこと。また演習での気づきを事後課題にまとめ、学びを整理しながら学習を進める。						
《履修に当たっての留意点》						
健康レベルの異なる複数事例の看護計画を立案し共有することで、アセスメント力の向上につなげたい。臨床現場を想定した事例を通し、優先順位の判断や時間管理、看護チームにおける連絡・報告・相談の重要性について学んでほしい。						
授業の方法		内 容			使用教材	授業以外での準備学習 の具体的な内容
第1回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	事例患者①の病態生理・治療・看護をまとめることができる		今まで使用した教科書	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む。
		各コマにおける授業予定	事例患者①の病態生理・治療・看護をまとめることができる			
第2回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	事例患者①の健康上の情報の分類を行い、アセスメントをし、優先順位を考えた看護問題の抽出、看護計画の立案ができる		今まで使用した教科書	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む。
		各コマにおける授業予定	事例患者①の健康上の情報の分類、アセスメント、優先順位を考えた看護問題の抽出、看護計画の立案			
第3回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	事例患者①の健康上の情報の分類を行い、アセスメントをし、優先順位を考えた看護問題の抽出、看護計画の立案ができる		今まで使用した教科書	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む。
		各コマにおける授業予定	事例患者①の健康上の情報の分類、アセスメント、優先順位を考えた看護問題の抽出、看護計画の立案			
第4回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	事例患者②の疾患について、病態生理・治療・看護をまとめることができる		今まで使用した教科書	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む。
		各コマにおける授業予定	事例患者②の疾患について、病態生理・治療・看護をまとめることができる			
第5回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	事例患者②の健康上の情報の分類を行い、アセスメントをし、優先順位を考えた看護問題の抽出、看護計画の立案ができる		今まで使用した教科書	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む。
		各コマにおける授業予定	事例患者②の健康上の情報の分類、アセスメント、優先順位を考えた看護問題の抽出、看護計画の立案			

授業の方法		内 容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	事例患者②の健康上の情報の分類を行い、アセスメントをし、優先順位を考えた看護問題の抽出、看護計画の立案ができる	今まで使用した教科書	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む。
		各コマにおける授業予定	事例患者②の健康上の情報の分類、アセスメント、優先順位を考えた看護問題の抽出、看護計画の立案		
第7回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	複数受け持ちの患者の優先順位を考えて行動計画を立案することができる	今まで使用した教科書	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む。
		各コマにおける授業予定	複数受け持ちの患者の優先順位を考えて行動計画を立案する		
第8回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	複数受け持ちの患者の優先順位を考えた行動計画を説明できる	今まで使用した教科書	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む。
		各コマにおける授業予定	発表		
第9回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	複数受け持ちの患者の優先順位を考えた行動計画を説明できる	今まで使用した教科書	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む。
		各コマにおける授業予定	グループごとに発表		
第10回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	事例患者③、事例患者④の複数受け持ちの場合の行動計画を優先順位を考え立案することができる	今まで使用した教科書	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む。
		各コマにおける授業予定	事例患者の複数受け持ちの行動計画を優先順位を考え立案する		
第11回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	事例患者の複数受け持ちの患者の状態に変化があった場合の行動計画を優先順位を考え、立案することができる	今まで使用した教科書	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む。
		各コマにおける授業予定	複数受け持ちの患者の行動計画の修正		
第12回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	事例患者の複数受け持ちの患者の状態に変化があった場合の優先順位を考えた行動計画を説明することができる	今まで使用した教科書	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む。
		各コマにおける授業予定	患者の状態に変化があった場合の行動計画を修正し発表する		
第13回	講義 演習形式	授業を通じての到達目標	優先順位の考え方について説明することができる	今まで使用した教科書	提示した疾患の病態生理、症状、治療、看護の学習をして臨む。
		各コマにおける授業予定	優先順位の考え方について		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	静脈血の採血の実施を安全・安楽に実施できる。	採血・静脈注射シュミレータ、教科書、看護がみえる1・2、臨床看護技術	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
		各コマにおける授業予定	真空管採血を含む採血部位の確認と無菌操作による静脈血の採血		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	静脈血の採血の実施を安全・安楽に実施できる。	採血・静脈注射シュミレータ、教科書、看護がみえる1・3、臨床看護技術	事前課題:教科書、看護技術を事前に学習しておく。 事後課題:ワークシートの振り返りと看護技術の再確認をする。
		各コマにおける授業予定	真空管採血を含む採血部位の確認と無菌操作による静脈血の採血		